



# 埋文だより

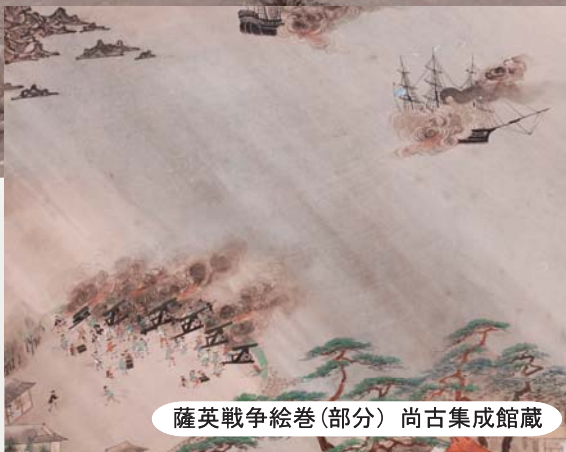
第54号

平成23年2月18日発行

## 祇園之洲砲台跡



砲座とみられる硬化面



薩英戦争絵巻(部分) 尚古集成館蔵

## 近代化産業遺産の礎

きんだい か さん ぎょう い さん いしづえ

祇園之洲砲台は、1853（嘉永6）年に島津齊彬が築いた砲台です。薩英戦争の一番の激戦地で、砲台はことごとく破壊されたといわれています。欧米列強の力を見せつけられた薩摩藩は、この戦争をきっかけにして、急速に近代化を進めていくことになります。

今回の発掘調査で明らかになったことを現地説明会を開催し、お知らせしました。今後も、世界遺産の登録に向け、九州・山口近代化産業遺産群の調査研究を進めていきます。

### 目次

- 近代化産業遺産の礎 祇園之洲砲台跡 ..... 1
- 平成22年度埋蔵文化財センター業務報告 ..... 2・3
- 埋蔵文化財センター事業成果報告 ..... 4
- シリーズ埋文豆知識⑬  
大昔の人々と「貝」 ..... 5
- 出かけてみよう！発掘現場 ..... 6
- 世界遺産登録を目指して～近代化産業遺産群発掘調査～ … 6

速報

# 平成22年度 埋蔵文化財センター業務

本年度、当センターでは県内19遺跡の発掘調査及び15遺跡の報告書作成を行いました。このうち、11遺跡を速報でお知らせします。詳細は、来年度の「新発見！かごしまの遺跡2011」で紹介します。

## ① 弥生時代の住居跡 ～上新田遺跡～（薩摩川内市）



弥生時代中頃の竪穴住居跡が5軒見つけられました。3m程度の四角形をしており、中には、住居の中央部で火をたいていたものもありました。

川内地方では、弥生時代の住居跡の発見例は少なく、貴重な資料となります。

## ② いろいろどりの土器 ～川骨遺跡～（薩摩川内市）



弥生時代から古墳時代にかけ他の地域との交流を示す特殊な形をした土器や真似て作った土器が見つかりました。

これらの土器を用いて、川内川の川べりで祭祀を行っていたと考えられます。

## ③ 輸入された青磁の碗 ～山仁田遺跡～（薩摩川内市）



竪穴遺構や竈跡と共に掘立柱建物跡の柱穴から14世紀頃に中国から輸入された青磁の碗が見つかりました。

## ④ 中世の古石塔 ～山口遺跡～（薩摩川内市）



中世の古石塔、掘立柱建物跡や畠跡が見つかりました。また、遺物の中には、特殊なものとして中国産の天目碗、青釉陶器などがあります。

## ⑤ 木製品多数出土 ～虎居城跡～（さつま町）



多くの木製品の中に、墨で「南無～」と書かれた板がありました。位牌の可能性のある木簡です。戦国時代の激しい戦いの中で倒れた人を悼むものでしょうか。

## ⑥ めずらしい鍋「繰糸鍋」 ～山崎野町跡A～（さつま町）



煮て柔らかくなったまゆから糸を取り出す「繰糸鍋」が、県内で初めて出土しました。江戸時代から、山崎地区で養蚕が盛んであった記録を裏付ける品です。

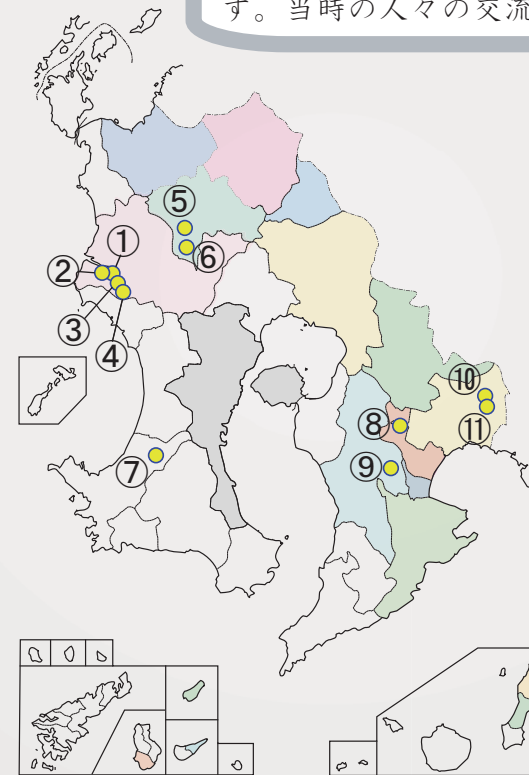
開催予

# 新発見！かごしまの遺跡2011

上野原縄文の森展示館で、7月中旬から開催する予定です。

## ⑦ 「なすび形」の木製鍬出土～南下遺跡～（南さつま市）

現在も水田に利用されている低湿地から、古墳時代の木製の鍬や鋤などが多数出土しました。北部九州で多数発見されていた「なすび形」をした木製鍬は、県内で初めての出土です。当時の人々の交流や耕作技術を知る上で貴重な資料です。



## ⑧ 鏡が副葬された土坑墓 ～天神段遺跡～（大崎町）

平安時代末から鎌倉時代初めの土坑墓が新たに1基発見されました。土坑墓からは、中国産の白磁碗や在地の土師皿、銅鏡、古銭等が出土し、当時の葬法を詳しく解明する重要な成果となりました。



## ⑨ 弥生時代最古級の鉄鍬 ～十三塚遺跡～（鹿屋市）

7号竪穴住居跡からは、県内最古と考えられる鉄鍬が出土しました。他にも、磨製石鍬や完形の鉢形土器、壺形土器など、当時の生活用具が多数出土しています。



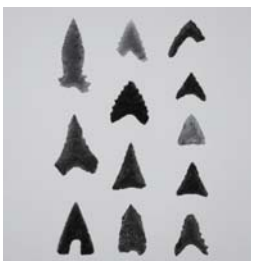
## ⑩ 縄文時代後期の落とし穴 ～船迫遺跡～（志布志市）



御池火山灰が混じった層を掘りぬいた縄文時代後期の落とし穴が、2基発見されました。落とし穴は直径1m、深さ2mもあり筒状の大きなものです。どんな動物を捕っていたのでしょうか。狩りの様子を想像してみてください。

## ⑩ 石鍬多数発見！ ～高吉B遺跡～（志布志市）

矢の先に使ったと考えられている石鍬が多数見つかりました。写真にあるように、大きさや形は様々で、使われている石も多様です。これらの石鍬がなぜこの遺跡に集中して見つかったのか新たな「謎」です。



# 埋蔵文化財センター事業成果報告

## まいぶん出前授業



土器の模様をつくろう（小学校）

本年度は、小・中学校、高等学校を中心に、公民館講座まで含めて20か所（対象44学級1館；1,210名）で実施しました。  
 「土器や石器に触れてうれしかった。すごく軽かった。」  
 「近くに貝塚があるという話を聞いてびっくりした。昔の海は、ずいぶん違っていることを教えてもらえてよかった。」  
 「本物は、けっこう形が複雑だと思った。」  
 「土器の形や模様が時代の違いにより変わることがわかった。」  
 「昔の人も、知恵があったと思う。」など感想がありました。  
 来年度も「まいぶん出前授業」を実施します。ご活用ください。  
 ☆対象：県内の希望する学校、PTA活動、公民館講座等

## 本物にふれるー埋蔵文化財学習支援教材ー貸出事業

本年度は、6校（対象18学級；493名）への貸出事業を実施し、授業や郷土教育への取り組みに活用されました。

「土器や石器は、軽くて繊細に作られているのに驚いた。」  
 「実際の作り方を体験してみたい。」等、感想が寄せられました。

来年度も、「まいぶんキット貸出事業」として、本物にふれる機会を提供します。ご活用ください。

☆対象：県内の希望する学校

☆貸出教材：土器（縄文時代、弥生時代）、石器（石斧、石鏃）など

例：「縄文土器の文様を比べよう」 貝殻文、沈線文、押型文など

◎申込み先：県立埋蔵文化財センター 電話 0995-48-5811 詳細は、当センターHPをご覧ください。



縄文時代の土器にふれる（中学校）

## かごしま県民大学連携講座「鹿児島の遺跡に学ぶ」

本年度は、鹿児島の大昔の人たちの生活を3回に分けて、わかりやすく紹介してきました。

☆第1回 おまかせ！夏休み自由研究「かごしまの大昔」〈7月27日（火）〉

小学校（5年生以上）・中学生を中心に31名の参加者

☆第2回 「火山と遺跡～自然とともに生きた南九州の人びと～」〈10月22日（金）〉

一般県民を対象に32名の参加者があり、

「鹿児島の地にはいろいろな火山の姿があることがわかった。」

「遺跡で出土した土器などから、当時の人々の暮らしぶりや生活の様子がどのようであったのか、よくわかった。」

「今度地層に接したら、今日の話をも参考にしておよく見てみたい。」

など、大変好評でした。

☆第3回 「9,500年前のムラに生きた人びと」〈2月26日（土）〉

来年度も本年度と同じ時期に開催する予定です。

詳細は、お問い合わせください。

◎会場：かごしま県民交流センター

申込み先：鹿児島県上野原縄文の森 電話 0995-48-5701



第2回講座「火山と遺跡」

# 埋文豆知識 13

## 大昔の人々と「貝」

明治10年、東京で鉄道に乗っていたアメリカ人のモース博士は、線路脇に貝殻がたくさん散らばっている所を見つけます。これが日本で最初に発掘された「大森貝塚」の発見でした。

大昔の人々は「貝」をどのように利用していたのでしょうか。

### 貝を食す「食料」

貝塚からは、ハマグリやカキ、シジミなどいろいろな種類の貝が出土します。貝塚は住居や集落の近くに造られ、中には大量の貝殻が2～3mも重なっている所もあり、貝は大切な食料でした。ところで、ハマグリなどの貝殻にも木の年輪と同じ一年間の成長を表す成長線があります。これを調べると、大昔の人々も今の潮干狩りの季節と同じ、5月頃に貝掘りをしていたことがわかりました。



宮坂貝塚(鹿児島神宮)

### 貝を使う「工具」

縄文時代の人たちは、「貝」を道具の一つとしても利用していました。貝殻は硬く、土器に模様をつけるのに適していました。貝殻の縁を土器の表面に当て、横や斜めに引いた文様が貝殻条痕文です。

煮炊きのための土器が、貝を利用した文様でデザイン性に富んだ土器、個性的な土器となっています。



貝殻条痕文土器(上野原遺跡)

### 貝を身にまとう「装飾品」

貝は、磨くと光沢が出て、とてもきれいです。そのために貝殻をいろいろと細工し、首飾りや腕輪、貝符などにしていました。それらの装飾品は、墓から出土することが多く、腕等に装着された状態で見つかります。このことから、大昔の人々が「貝」に不思議な魅力を感じ、魔よけなどとして利用していたことが想像されます。



貝輪(広田遺跡)



貝符(屋鈍遺跡)

上野原縄文の森 第29回企画展  
「古代アクセサリーの魅力」  
平成23年3月21日(月)まで

場所:上野原縄文の森 展示館

貝輪や貝符も展示中です。



みなさんは、発掘調査中の遺跡に行ったことがありますか？ 埋蔵文化財センターでは、毎年、県内各地で発掘調査を行っており、遺跡で現地説明会も開催しています。「発掘調査現地説明会」では次のような体験をすることができます。

<p><b>遺跡の説明を聞く</b></p> <p>職員が遺跡を案内し、遺構（住居跡など）や遺物（土器や石器など）についてわかりやすく説明します。また、発掘調査の方法や昔の人々のくらしの様子なども紹介します。</p> <p>何千年も前の大地に立てたことの不思議さとロマンを感じました。</p>  <p>立小野堀遺跡</p>	<p><b>実際の遺物を間近で見る</b></p> <p>これまでの調査で見つかった本物の土器や石器などを間近で見ることができます。発掘調査の報告書や、他にもこれまでの調査の様子を写真などで見ることができます。</p> <p>水晶のやじりが、とてもきれいですごいなと思いました。</p>  <p>出土した遺物の展示</p>	<p><b>発掘を体験する</b></p> <p>見学の後で、発掘体験もできます。道具（移植ごてなど）を使って、自分の手で土器や石器を見つけてみませんか？他にも弓矢遊びや火おこし体験などを行っています。</p> <p>自分で土器を見つけたときは、うれしかったです。弓矢も楽しかった。</p>  <p>田原迫ノ上遺跡</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

埋蔵文化財センターでは、年間を通して県内各地で遺跡の発掘調査を行っており、その様子はいつでも見学できます。発掘現場の見学を希望される場合は、当センターまでご連絡ください。（電話：0995-48-5811）

**世界遺産登録をめざして ～近代化産業遺産群発掘調査～**

九州・山口の近代化産業遺産群が、幕末の西洋技術の導入やその後の近代工業化の過程を示すものとして、世界的に高い価値があると評価され、平成21年1月5日にユネスコの世界遺産暫定一覧表に追加記載されました。そこで、鹿児島県では、世界遺産登録に向けて、県内に残る近代化産業遺産の発掘調査を行っています。

これまで、鹿児島紡績所跡（鹿児島市吉野町・5月～7月）、祇園之洲砲台跡（鹿児島市清水町・9月～11月）の調査を行い、1月からは、天保山砲台跡（鹿児島市天保山町・3月まで）の発掘調査を始めています。今後の調査成果にご期待ください。



天保山砲台跡で見つかった石畳

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。お近くにお越しの節はぜひお立ち寄りください。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県教育委員会 (<http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/>) または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp>) からお入りください。

検索キーワード

**埋文だより** 第54号

発行日 平成23年2月18日  
 編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
 〒899-4318 鹿児島県霧島市  
 国分上野原縄文の森2番1号  
 TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820  
 URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>  
 E-mail: [maibun@jomon-no-mori.jp](mailto:maibun@jomon-no-mori.jp)